

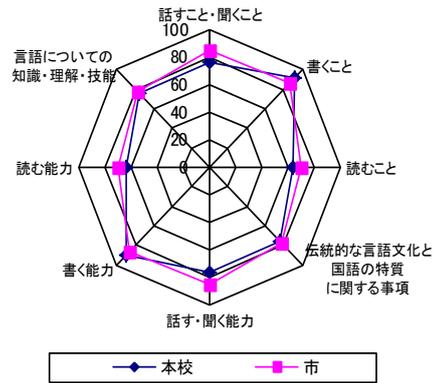
宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	76.4	84.3	81.2
	書くこと	92.4	86.4	74.0
	読むこと	63.7	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	76.4	84.3	81.2
	書く能力	90.1	86.0	74.2
	読む能力	63.7	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	75.6	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

(国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

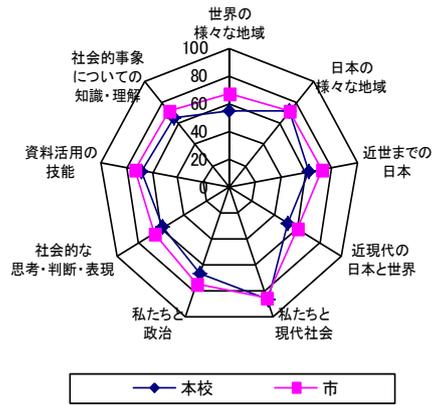
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率より7.9ポイント低い。話し方の工夫を聞き取ったり、司会者の工夫を聞き取ったりすることができていない。	・聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ったり、司会者の工夫を聞き取ったり、話し合いの流れを的確にとらえて司会者として適切な発言をするのを聞いたりすることができなかった。このことから話し合いやプレゼンテーション、パネルディスカッションなどを通して、考えを深める聞き方について確認を行っていききたい。
書くこと	○平均正答率は、昨年度同様、他の領域より高い。また市の平均正答率より4.1ポイント高い。与えられた課題に対して、自分の立場を明確にし、理由やまとめを書くことができた。	・説得力のある文章を書いたり、読書感想文を書いたり、資料を通して事実を読み取りそれを説明する文章を書くなど、さまざまな文章を書かせる場面を設定し、語彙力を増やす指導を引き続き行っていききたい。
読むこと	・市の正答率より5.8ポイント低い。 ●説明文では文章の展開に即して内容をとらえることができていない。また物語文でも登場人物の心情をとらえることができなかった。	・説明的文章では文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の展開をとらえてその内容を整理してまとめることができていない。また文学的文章では登場人物の様子から、心情を予測したり、表現の特徴について理解したりすることもできなかった。読み取りの際にはどうして解答が導き出せるのかを、筋道を立てて指導していききたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の正答率より2.9ポイント低い。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問は、市の正答率より3.7ポイント高い。 ○敬語の正答率が市の平均より5.9ポイント高い。敬語について理解できている。 ●古文で文章の展開に即して内容をとらえる設問では、市の正答率より11.5ポイント低い。古文の内容を捉えられていない。	・漢字の確実な定着を図るためには、熟語を繰り返し書かせることが必要である。朝の学習や家庭学習などを通して繰り返し書かせる指導を行っていききたい。また今後とも漢字テストなどの演習問題を定期的実施し、漢字の読み書きが正しく身につけているかどうかを確認していききたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	54.8	66.8	54.1
	日本の様々な地域	71.4	72.1	63.4
	近世までの日本	62.6	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	52.4	60.0	55.2
	私たちと現代社会	85.7	85.0	73.0
	私たちと政治	65.9	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.3	66.1	52.0
	資料活用技能	68.0	72.8	63.0
	社会的な事象についての知識・理解	65.3	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

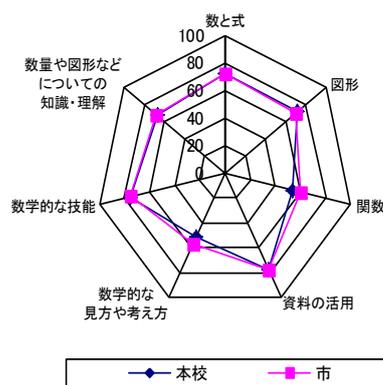
○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域 ●アジア州の人口分布に関する図の読み取りや人口や資源の構成に関する問題は、市の平均を下回っている。イギリスの貿易相手国の変化の理由についても市の平均を下回っている。	・地理的分野は全体的に市の平均よりも低い。世界の諸地域も、日本の諸地域も、特色ある事象を他の事象と有機的に関連づけて地域的特色をとらえる必要がある。地図や資料などを読み取って考え、表現する力を向上させることができるように指導を継続させたい。家庭学習等で、1年で学習したことを繰り返し復習する大切さも指導したい。
	日本の様々な地域 ○●全体として、市の平均と変わらない。北陸地方の自然環境への理解のもと、地場産業を読み取る問題では、正答率52.9%と市の正答率を4%上回った。長野県の農業に関する正答率は、70.0%と市正答率77.8%を下回った。	
歴史	近世までの日本 ●奈良時代の税のしくみの問題は、正答率32.9%で市の平均を大きく下回っている。 ●江戸幕府の大名統制に関する問題、寺子屋、江戸時代の農業の発達に関する問題とも市の平均を下回っている。	・歴史的分野も、古代の問題になるほど正答率が低い。1年生で学習したことを繰り返し復習する習慣をつけさせたい。基礎的な知識の定着を図り、それを生かして資料活用技能、社会的な思考・判断・表現の力を向上させられるように授業を展開したい。
	近現代の日本と世界 ○●日本の産業革命が貿易に与えた影響について資料を読み取る問題では市の平均を上回っている。朝鮮戦争の影響や冷たい戦争と世界の動きについては下回っている。	・第二次世界大戦後の世界の動きについて重要語句をおさえながら大きな流れをおさえたい。特に朝鮮戦争後の動きについて資料を活用しながら、考えさせたり、話し合わせたりすることで、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。
公民	私たちと現代社会 ○対立・合意・効率・公正の問題では市のポイントを4%上回っている。情報化の信連に関する資料も読み取れていた。	・立憲主義と日本国憲法の基本原理を理解し、自分たちの生活と最高法規としての憲法の関わりについて関心をもたせることにより、実際に憲法を改正する場合の手続きを身近なものとして捉えるようにしたい。
	私たちと政治 ○●市の平均を上回っている。法律案が成立する過程やしきみについての理解度の問題では、市の正答率より1.4%高い正答率であり、裁判のしくみの問題では1%上回っていた。しかし地方自治の問題では10ポイント下回っている。	・まず、社会的な事象に関する意欲が高まるようにしたい。新聞記事などを通して時事問題に触れ話し合いをさせたい。また、裁判などではシミュレーションをして模擬的な体験をさせることも大切である。資料活用技能を向上させる学習活動を展開する必要がある。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.9	72.1	70.7
	図形	71.3	70.5	58.1
	関数	53.3	59.6	52.1
	資料の活用	76.8	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	51.6	56.9	47.7
	数学的な技能	75.6	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	67.5	68.9	59.8



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

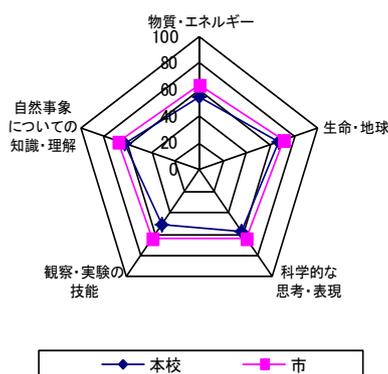
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○●多項式の展開、因数分解、平方根の基本的な計算は多くの生徒ができるようになってきているが、やや複雑な計算になると正答率が低くなっている。 ●2次方程式については、平方根の考えを使って2次方程式を解く問題や、文章題の正答率はかなり低い。	共通な因数をくりだし、さらに因数分解する問題は、繰り返し指導しているが、くりだした数を消去してしまう生徒が多い。原因として2次方程式との勘違いが考えられるので、反復練習を続けていきたい。 文章題を苦手としている生徒が多いので、立式からじっくり取り組ませ、活用する力を身につけさせていきたい。
図形	○●図形の性質を活用し作図や、角度を求めることはできるが、証明を苦手としている生徒が多くみられた。	数学的な論理や定理の成り立ちなど2年生の学習内容にさかのぼって、図形の性質について復習、整理させ、定着を図りたい。
関数	●全体的に市の平均を下回っている。特に2乗に比例する関数に関する理解が低いことが目立つ。	関数の表、式、グラフはつながりを持ち、表現方法の違いがあるだけということをしかり理解させ、それを活用する問題に取り組む機会を多く設定していきたい。
資料の活用	○●資料の活用、確率ともに基本問題は市の平均を上回っているが、一歩踏み込んだ問題ではやや下回っている。	相対度数(割合)の意味の定着と、確率については樹形図をかかせ、丁寧に取り組ませることで、理解を深めていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	54.6	63.0	57.9
	生命・地球	66.3	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	57.0	63.5	57.5
	観察・実験の技能	51.2	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	63.3	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

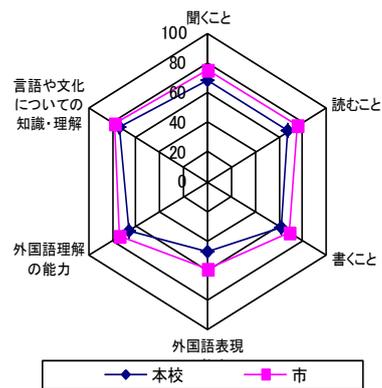
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市平均を8.4%下回っている。特に大問8の電流の性質、大問5の化学変化、大問11の物体の色々な運動についての正答率が低い。	暗記しようとしているが、実験方法・結果・考察を関連付けて覚えていない。思考力を高められるように、なぜそうなるのか常に疑問を持って臨めるよう授業を工夫したい。また、記述問題、計算問題に対する苦手意識が強い。小テスト等でくり返し取り組ませたい。
生命・地球	●市平均を3.9%下回っている。特に大問7の前線の通過と天気の変化についての小問1は正答率42.9%と市平均を13.2%も下回った。	寒冷前線・温暖前線・閉塞前線・停滞前線の特徴と記号、通過時刻、通過後の風向・気温の変化など、わかりやすく区別してまとめる必要がある。作図や作表にじっくり取り組ませ、しっかりと身につけさせたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.8	74.8	66.0
	読むこと	67.9	75.5	66.9
	書くこと	62.1	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	47.3	58.5	53.9
	外国語理解の能力	66.5	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	73.6	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○●市平均を7%下回っている。問1の基本的な内容理解については、市の平均を上回っているが、問2・3・4の対話文の応答や長文でのリスニングは、市平均を下回っている。まとまりのある長文になると、内容理解できず正答率が下がる傾向である。	教科書の内容を中心に重要な表現をくり返し聞く、話す練習をし、英語を正確に理解できるよう指導していきたい。ALTとの授業においても積極的に会話に取り組み、英語の語彙数や表現などの情報量を増やしていきたい。
読むこと	●市平均を7.6%下回った。基本的な単語や文法の理解・定着が不十分なため、基本問題は出来ても長文の読み取りになると内容理解が図れない生徒が多くみられる。文章や対話の流れの概要を把握する能力も十分ではないため、積極的に問題に取り組めていないようだ。	英文の資料や情報をもとに、適切な判断や読み取りができるスキルを身に付けられるよう、語彙力・文法力を高め、少しずつ読解力が進むよう工夫した活動を行ってきたい。英問英答の問題は苦手意識が強く、解答をあきらめてしまう生徒も多くみられるので、粘り強く問題に取り組めるよう指導していきたい。
書くこと	○●市平均を7.7%下回った。文脈の流れから正しい単語を書く問題は、市とほぼ同ポイントであるが、並べかえ問題は、基本的な文法の理解・定着が不十分なため、正答率が低い。また、場面に応じた表現や自分のことについて書く英作文は、苦手意識が強く、無解答の生徒も多い。	新出単語や連語、重要表現は、単語テストなど実施しているが、なかなか定着が難しいようだ。継続的な単語の練習や口頭練習を授業で積極的に取り入れ、定着・理解を図りたい。スピーチ発表の場面を多く作り、自分自身について発表し、さらには英文で書けるよう工夫していきたい。